

# Dear地球民

第22号  
1999年11月発行

編集発行 ゆがわら国際交流協会  
☎259-0303 神奈川県足柄下郡湯河原町土肥1-7-1  
湯河原町商工会内 ☎0465-63-0111



## THE 14th やっさ国際交流

14回目を迎えたやっさ国際交流。7月30日、元気に湯河原駅に降り立った留学生たちを、ホストファミリーの笑顔が出迎えました。プラカードに自分の名前を見つけ、走り寄る留学生。さあ、8日間のホームステイの始まりです。


今年は、台湾、ブラジル、韓国、中国、アメリカ、タイ、ベルギーの7カ国から計20名の若者が来湯し、初めて日本の家庭での生活を楽しみました。海で泳いだこと、お母さんに着せてもらったゆかたで、やっさパレードに参加したこと、家族とたくさん語り合ったこと。どれも貴重な体験になったはずです。ホストファミリーからも、「言葉の不自由な本人が変わって、日系移民一世のおばあちゃんから手紙がきました。」「湯かけ祭りに帰ってきて、御神輿をかつぎました。」「地球の裏側とインターネットでやり取りしているので、遠くにいる感じがしないんです。」といった、「その後の交流」もご報告いただきました。親善大使となった、湯河原の20家庭の皆さんと留学生、それを暖かく支えてくれた地域の皆さんに、エールをおくりたいと思います。




パレード当日は、東京から先生も駆けつけて下さり、やる気満々のJET日本語学校の仲良し七人。前日の練習の成果やいかに？

# 1999 第14回やっさ国際交流


## ホストファミリーと留学生




加藤 功 (宮上)  
呂 冠漢 ロ・カンハン  
(台湾)




高橋 芳雄(熱海)  
周 明瓊 シュウ・メイワン  
(台湾)



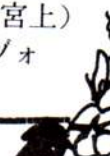
露木 幹雄(吉浜)  
トミマツ・メリッサ・メグミ  
(ブラジル)




秋山 里花(土肥)  
モライス・ツセラ・ヒベイロ  
(ブラジル)




中村 節哉(吉浜)  
朴 正浩 パク・ジョンホ  
(韓国)




長谷川 俊子(宮上)  
王 卓 ワン・ツォ  
(中国)




高橋 賢次(土肥)  
サクマ・ファビオ・マサオ  
(ブラジル)




山田 武夫(宮下)  
クジモト・マルセロ・マツダ  
(ブラジル)




高野 和子(土肥)  
丁 誠慧 チョン・ソンハ  
(韓国)




松野 守利(吉浜)  
宇都宮・昌令・エリック  
(アメリカ)




小島 敏明(鍛冶屋)  
カンスキー・リチャード・ヒデキ  
(アメリカ)




鳥光 弘孝(土肥)  
綱島・マルセロ・弘  
(ブラジル)




前田 牧子(吉浜)  
陳 玟璣 チン・フンセン  
(台湾)




服部 壽子(土肥)  
許 孝萱 キョウ・コウセン  
(台湾)




露木 高信(宮下)  
黄 美珍 ファン・ミン  
(韓国)




瀬野 直人(吉浜)  
烏 雲図 オウ・インウ  
(中国)




浜野 英治(吉浜)  
フィリップ・ハンブル  
(ベルギー)



柏木 光之  
(鍛冶屋)  
張 賢 チャン・ヒョン  
(韓国)



青木 勝子(土肥)  
蔡 佳静 サイ・カセイ  
(台湾)



棚橋 由香利  
(鍛冶屋)  
オン・バンニサイ・シリワン  
(タイ)

### 第14回やっさ国際交流スケジュール



7/30(金)湯河原駅にて留学生を出迎え、開講式



8/1(日)町内バス見学とやっさ踊り練習

万葉公園～湯河原ゆかりの美術館～

幕山公園にて昼食～

昇栄堂味楽庵にて和菓子作りを体験

2(月)ゆかた、ハッピー姿で「やっさパレード」参加

3(火)花火大会見学、親睦会

5(木)夜、手作り料理を持ち寄って、お別れパーティ

6(金)閉講式(地球民認定証授与)、駅ホームで見送り

## 湯河原には、わたしの第二の家族がいる



\*\*\*ホストファミリーと留学生の感想文から\*\*\*

湯河原でのホームステイはとてもよかった。ホストファミリーはやさしくて親切だった。一週間湯河原に住んで、きれいな所へ行った。毎日おいしい食べ物を食べたり、ホストファミリーと話したりしました。とても楽しかった。ほかには、日本語を練習しました。友達ができて、英語と日本語を使った。さっき私は家族に会いたかったが、湯河原にホームステイに来たから、親切なお父さんとお母さんとお姉さんに会った。日本でも家族がいると思います。本当にどうもありがとうございます。

(オン・パンニサイ・シリワン、タイ)

やっさ祭りで誕生する私の子供は、この夏で8人になりました。ブラジル、香港、オーストラリア、モンゴル、韓国、その都度彼らを通して、行ったことのない各々の国を、少し識ることができました。ここ三年は韓国人の子供だったことで、私は韓国を身近に感じていて、韓国が好きになっています。ことに8人目の子供パク・ジョンホは素直で明るく、向学心旺盛な礼儀正しい、彼を育てた家庭がどんなに素晴らしいか想像できる、好青年です。おまけに容姿まで整っているのですから、またまた友達に“中村さん嬉しそう”と言われてしまいました。

彼は、よく遊び、よく学びのタイプの青年ですから、すごいスピードで日本に馴染んでいくと思いますが、日本が失いつつある感の「礼節」、韓国人の素晴らしい心の部分は、絶対に保持していく青年だと、短い期間でしたが、彼を見て確信します。

今年も子供を通して、多くの若い人たちと、そして人間を愛するホストファミリーと交流することができました。本当に楽しみました。たのしかった。ジョンホ、いつでも湯河原に帰っておいで。湯河原は、あなたの日本の故郷ですよ。湯河原にあなたの家がある。あなたのことが大好きな私たちがいる。(ホストファミリー、中村てる子)



味楽庵さんのご厚意で、和菓子作りを見学  
お抹茶で季節の味を楽しみ、満足、満足。



ゆかたと髪は、お母さんとお姉さんが  
やってくれました。やっさを踊る  
許孝萱さんは心優しい台湾女性



リチャード君(米国)には、行雄君という  
9歳のやんちゃな弟ができました。



私の人生の中でも、際だって良い経験の一つとなった。湯河原は最高で、平穏で気持ちよく、大都市東京の後に落ち着きをもたらしてくれた。人々は親切でいつも手助けしてくれる。家族との関係は最高であった。私の家族は際だって教養があり、親切で気長で、すべてを私に良いようにしてくれた。ただ唯一悲しいのは、私に言わせれば、日本国民の要素を持つ人々と、より深く活発な形で伝えたり会話したりできるような日本語を、私が話さないことだ。  
(モライス・ジゼラ・ヒベイロ、ブラジル)

初めての留学生の、ホストファミリーの体験は、大変有意義なものでした。我が家にお迎えした中国の王卓(ワツォ)さんは、22才のとても素直な女性です。南京の出身とのことで、過去の不幸な出来事を思い出し、ドキリとしてしまいました。王さんと我が家の4人の子供達の仲良くおしゃべりしている様子を目の当たりにして、最高の国際交流が出来たと思いました。そして、中国と日本の友好は最重要課題という認識の中で、この小さな友好の輪が幾重にも広がり、平和の花が咲き実を結ぶことを祈らずにいられません。末永く良いお友達としてお付き合いをしましょうと、固く約束しました。私も、もう一人娘がふえたようで、幸せな気持ちです。王さんの、日本と中国の友好交流のために努力したいとの言葉に、感激しております。(ホストファミリー、長谷川俊子)

初めてホームを降りて来て、駅前で大きなカメラで写真を撮られて、芸能人気分でした。お母さんはプラカードを揚げて迎えてくれて、とてもうれしかった。日本の家庭での生活体験は初めてですが、最初から何の不安もありませんでした。お父さん、お母さんは親切で、とてもおもしろい。日本の家庭料理は何でも食べられました。お母さんも安心してくれました。お母さんと、とてもよくお話しをしましたので、日本語を沢山覚えました。新鮮な魚も食べました。湯河原は、景色も人々もとても良いので、また来たいです。  
(蔡佳静 サイ・カセイ、台湾)

14回目のやさし国際交流に、姪に「ホームステイをやってくれない」と言われて、心配を抱えながらも妻が承諾してくれました。受け入れ留学生を知らされ、食事や生活様式の違いなど、また妻が心配しましたが、1日遅れで駅に降り立った青年に、不安は消え息子が来た気持ちになりました。ちょうど昼頃でしたので、小島ファミリーと駅前で食事をし、初日がスタートしました。夕方、保母をしている妻が帰宅し「てんぷら」を作り、エリックの「美味しい」との一言で安堵し、家族になりました。

ホストの露木さんが何くれとなく気を遣ってくれて、エリックも店の配達をしたり、メリッサとふざけたり、リチャードとも兄弟のようによく遊びました。私の幼少の頃の生活を思い起こさせたりしてくれました。メリッサは地域の人と溶け合い、太鼓を叩いたり、お寺の掃除をしたり、地域住民に愛されました。露木さんが、自然体で仕事も遊びもさせている姿に、これが国際交流だと思いました。十国峠、小田原城、メリッサも一緒に行き、電車の中では、椅子から立つ時そっと手で支えてくれた優しさ、冷たい飲み物や食事の時の語らひは、家族のような楽しいひとときでした。

エリックのお母さんから国際電話が2度あって、最初は「息子をよろしく」2度目は「とても楽しい思い出が出来て、また日本に行きたいと言っています」とのこと。

ゆがわら国際交流協会のスタッフの皆様、短い間でしたが思い出を沢山ありがとうございました。  
(ホストファミリー、松野守利)

ホームステイは初めてでしたが、本当に多い思い出をつくる機会ができました。まず、いろんな所へ行って楽しかったです。富士山もいい天気で見だし、箱根水族館、小田原城も行ったし、映画も見に行きました。そして毎日おいしい料理で、今3kgくらい太っている感じです。本当にお母さんは上手な cooker です。それだけではなく、本当のお母さんのように優しく面倒を見てくれて、ありがたかったです。きっと忘れないはずです。ずっとお母さんと露木家と、いい関係になりたいんです。(黄美珍 ファン・ミツ、韓国)



⇨姉妹よりも仲良し?  
韓国のミジンさんと露木さん  
(幕山公園にて)



「私の日本のお父さん、お母さんよ」⇨  
駅で高橋さんの出迎えを受ける  
台湾の周明琬さん

初めてのホームステイで、どのような性格かも分からず、台湾の呂冠漢(ロ・カハン)という名前だけを頼りに湯河原駅に行き、彼が改札口に現れた時に、「アッ、この男の子とは一週間楽しく過ごせそうだ」と直感的に思いました。

私達夫婦には、2年前に結婚し、独立した息子が小田原におりますが、自分の息子と過ごした年月より、ハン君と過ごしたこの一週間の方が充実していたと思うほど楽しい日々でした。一緒に酒を飲み、家業(肉惣菜)を手伝ってもらい、釣りをし、人生を語り、彼の弾くバイオリンでラブ・イズ・オーバーを合唱し、お経の意味を習い、本当にいい勉強をさせてもらいました。二度とこの様な好青年と出会うことがないと思えるほど、夫婦でほれ込んでしまいました。自分の息子より可愛いと思える男の子に出会った事が、自分たち夫婦には信じられない気持ちです。この様な出会いを与えてくれた協会の皆様及びスタッフの皆様本当に感謝致します。(ホストファミリー、加藤功)

日本人達が、これほど外国の人達に関心があるとは思いませんでした。今まで私が描いていた、日本人に対しての狭い考えがおかしいくらいだ。本当に湯河原町での一週間は短く、とても楽しかったし、とても有意義でした。

私は日本に来るまで、韓国人と日本人が双方をあまり好きではないと聞いていました。日本に来て3カ月目頃までは、日本人は韓国人に対する応対が一番悪いと聞いていたし、そのように考えていました。でも、今度のホームステイを通して、日本人達に対し、新たな見方が出来る様になりました。これからもこのような機会が沢山あれば願うのみです。(張賢 チャン・ヒョン、韓国)

## やっさ国際交流

主催 伊わらの国際交流協会



⇒チマ・チョゴリ姿が  
会場に花を添えた  
韓国チームの熱演

★ Good-bye  
Party ★



お料理上手のシリワンさんは ⇒  
タイカレーを作ってくれました。  
後ろのお母さんも嬉しそう!



ブラジルのダンスです。このあと、会場のみんなも加わり、大変な盛り上がり。(グッドバイ・パーティーにて)



この8日間を振り返って頭に浮かぶのは、誠慧(リハ)の笑顔です。海水浴で、パレードで、花火大会で、箱根で、家で、思い返してみると彼女はいつもニコニコ楽しそうに笑ってくれていました。ふと考えると、私達家族もいつも以上に笑顔で過ごしていた気がします。本当に本当に楽しい8日間でした。色々な行事の合い間を縫って、お互いの国のことはもちろん、仕事のこと、食べ物のこと、ボーイフレンドのこと... シリアスな話題からくだらないジョークまで、語り尽くせないほど沢山のことを話しました。夕食後についつい話し込み、目がしょぼしょぼするので時計を見ると2時過ぎで、あわてておやすみを言ったりする日もあり、ずっと前からの友達のように何でも話すことができました。ホームステイは終わってしまうけれど、留学期間はまだ8カ月もあるので、このホームステイを私達の友情の始まりにして、連絡を取り合って、もっともっと仲良くなりたいと思っています。(ホストファミリー、高野和子)

我が家で預かった息子は、23才。ブラジルのサンパウロとブラジリアの中間位の位置にあり、人口が湯河原町と同じくらいで面積はその数十倍、主にコーヒー(これは味としてはブラジルでは有名なメーカー品らしい)、綿、大豆、麦、人参等を作る、大きな農園の長男。その村(?)は日本人の二世三世が少なく、日本語を話す機会があまりないとのことで、時々顔をゆがめて言葉を探す姿を見て、気の毒に感じました。それ故、我々の言いなりで、出された物はすべて食べ、出掛ける時はどこへでもついて行き、生活交流の日は、協会の他の仲間連れられ、楽しかったと帰ってくる。(湯河原の茶畑、温室ミカン、路地ミカンの継ぎ木、ブルーベリー等に興味を持ったようだ)

唯一、自分から自分の意志を伝えたこと。それは、「海に行きたい。(泳ぐ訳でなく)若い女の子と写真を撮りたい。」とのこと。水着を着たギャルに囲まれた彼の顔が、最高にホホエンデタのは、私にも最高の思い出として、胸の中に残っています。明日が閉講式という日に、やっと慣れ、笑い顔を見せた MASSAO。やはり、8日間というのは短いかな。(ホストファミリー、高橋 三好)



# 晴れて姉妹都市関係樹立



☆☆☆ 豪州ポートステイブンス市訪問団を迎えて ☆☆☆

湯河原町民と海外都市との友好関係を結ぶ目的で、協会役員2名と町職員1名で初めて豪州ポートステイブンス市を訪問したのは96年4月であった。翌97年12月、同市から市長や市会議員、一般市民、小中高校生など41名の大訪問団が来湯し、両市民の交流が急速に親密になって行った。昨98年11月、当町から助役、議員、町職員、当協会役員2名など15名が同市を訪問し、英語版の姉妹都市提携書の調印を行い、今年(99年)8月16日から19日までの3泊4日の日程で同市から市長、議員、一般市民14名が来湯し、町内の家庭でホームステイしてもらい、町民との友好をさらに深めた。17日には米岡町長とパートレット市長が日本語版の姉妹都市提携書に調印した。

## 1. 出迎え(8月16日)

「日本へようこそ。」

「こんにちは。皆さん、お変わりありませんか?」

熱海駅新幹線ホームからジョーン・パートレット市長が真っ先に降りて来た。彼は2度目の来湯である。後からイネス・クライトン夫妻、ケリー・オコーナー夫妻など懐かしい顔が続き、初めての顔が大きな荷物を引きずりながら後に続いた。

協会役員、町職員が車3台で、熱海駅で出迎えた。七尾峠経由で、湯河原の風景を案内しながら昼食場所のカノンに到着した。出迎えた私たちスタッフは彼らの間に席を取り、身振り手振りよろしく下手な英語で話に花を咲かせた。

「湯河原の海を見たい」

突然、ネルソンベイ観光協会長のポブ・ウエストバリー氏が言い出した。次の予



会ったばかりなのに、すぐに打ち解けて……  
カンプル夫妻とホストファミリーの  
樋口さん(対面式にて)





交流の第一歩、調印を終えて  
 (左より) クライントン議員、バートレット市長  
 米岡町長、鈴木町議会議長

定まで時間があつたので、会長の運転で海岸に向かった。ボブは若い女の子ばかりをカメラに収めていた。特にサーフセイバーの動きに興味をもったようだった。彼らの教師がオーストラリア人だと告げると盛んに頷いていた。

## 2. 対面式

「ジョン・バートレット市長とホストファミリーの山田さんご一家です。」

出席者全員から大きな拍手が起こった。一斉にカメラのフラッシュが光った。各訪問者とそれぞれのホストファミリーが次々に紹介され、会場はなごやかな雰囲気包まれて行った。

昼食を終えた一行は対面式が開かれる商工会館に向かった。協会長、助役、ジョン市長からの簡単な挨拶の後、滞在中の日程の説明が行われ、ホストファミリーとの対面式に入った。初対面にもかかわらず、それぞれの家族は旧知のように談笑していた。午後3時30分、対面式は終了し、各家庭に散って行った。

## 3. 姉妹都市提携調印 (8月17日)

会場はシーンと静まり返り、出席者全員の視線は正面に集中した。正面テーブルの中央に日豪の国旗と大きな花が飾られていた。左側にバートレット市長とクライントン議員、右側に米岡町長と横井助役が席に着き、提携書にサインしていた。

午前10時30分、奥湯河原山翠楼の会議室で、大きな拍手と共に調印式は無事終了し、今後の交流方法などについての話し合いが和気あいあいの中に行われた。

「今テレビで放映されているのは高校野球です。野球は日本で最も人気のあるスポーツです。オーストラリアはいかがですか?」

「夏の人気スポーツはクリケットです。全国大会が始まると国中の人がテレビの前に釘付けです。今度、夏にいらっしゃい。一緒にやりましょう。」

山翠楼を後に、ゆかりの美術館を見学した。同行した町議員たちはテレビの前に座り込んでいた。館内を見終わった訪問団一行は、それを興味深そうに遠くから眺めていた。

#### 4. 町内見学

「あそこに見える半島は真鶴岬です。先端が首で両側に大きく翼を広げた鶴に見えることから真鶴と名付けられました。その右側に伸びている浜が先程歩いた吉浜海岸です。」

一行は横一列に並んで星ヶ山展望台から相模湾を見下ろしていた。

美術館を後に一旦役場に帰り、ここで昼食をした。午後1時、町のバスを仕立てて町内見学に出発した。最初に訪れたのは湯河原中学校。学生は夏休み中で誰もいなかったが、宿直の先生の案内で、理科室、音楽室、コンピューター室、図工室などを見学した。その後、海浜公園、町営プール、吉浜海水浴場、ゴミ焼却場とコースを取り、最後に星ヶ山に到着した。

海水浴場では砂浜を散歩してもらったが、皆「暑い、暑い。」を連発し、汗だくのジョーン市長はカキ氷をむさぼるように食べていた。下界がうだるような暑さだったので、星ヶ山はまるで別世界であった。

#### 5. 箱根観光（8月18日）

空はどこまでも澄み切っていた。天候を心配したスタッフの気苦労は徒労であった。午前9時30分、訪問団一行とホストファミリーやスタッフを乗せた町のバスは一路箱根に向った。

「オー、ワンダフル！」

パークウェイ経由で十国峠に差し掛かった時、山間に富士山の姿が目に入った。訪問者全員は一斉に歓声を上げた。

芦ノ湖スカイラインの展望台で、富士山をバックに記念写真撮影後、桃源境からロープウェイで大湧谷に到着。高齢者や足の不自由な人もいたが、全員が全コースを踏破した。ここで昼食。

箱根神社では賽銭箱にお金を投げ入れ、鈴を鳴らし、両手を合わせた。女性陣はお守りなどを買ってあさっていた。日本の慣習を一心に体験しようとしている姿に、同行したホストやスタッフは感動を覚えた。また、杉並木路を徒歩で旧街道の霧

夏はなかなか姿を見せてくれない富士山も  
オーストラリアからのお客様を歓迎





⇨美術室では生徒の  
ポスター作品に歓声  
(湯河原中学校にて)



お箏の演奏とかわいい⇨  
十二単衣に感激の  
ボールご夫妻



気を体験してもらったり、関所跡の見学など相当ハードな1日だったが、疲れも見せず、こちらで用意したスケジュールをこなしてくれた。それにしても、この時期に富士山が見られたことはラッキーであった。

## 6. 歓迎会

「私たちと湯河原町との姉妹都市関係が正式にスタートしました。早速この10月下旬には湯河原の中学生が私たちの町を訪問していただくことになり、できる限りのことをさせていただきます。今後、いろいろな形で交流を行い、両市町がますます親密な関係に発展して行くことを期待します。」

軽装のジョーン市長は笑顔を振りまきながら挨拶した。肩の荷を下ろしたのか、約120名の参加者のどの顔も一様にリラックスした和やかな表情を浮かべていた。

箱根から帰り、午後7時より観光会館で歓迎会が行われた。ポートステイブンス市を紹介してくれた国司氏の音頭で乾杯した後、懇親会に入った。

琴や三味線、スタッフの合唱などのアトラクション、派遣予定中学生と教師の紹介とプログラムが進み、両市町の記念品交換を最後に歓迎会は終了した。

町長と市長、訪問者とホスト、そして参加した町民たちがそれぞれのテーブルでなごやかに談笑していた。別れ際、親しくなった両市民がプレゼント交換を行ったり、話が尽きないのか、閉会後もあちこちで立ち話をしている姿があった。

## 7. 別れの朝（8月19日）

「来年は奥さんと一緒にオーストラリアにいらっしやい。私の家の一部屋をあなた達のためにいつも空けてありますよ。」

「これでも私は料理が上手なのよ。あなた達には是非ご馳走したい。」

イネス夫妻が1人のスタッフの手を握りしめながら言った。列車が熱海駅新幹線ホームに入って来た。夫人が両手で抱きしめて頬にキスをした。目が潤んでいるように見えた。

この日の朝も快晴だった。訪問団は二班に分かれ、湯河原を去ることになっていた。1班は午前8時30分、2班は午前11時に商工会館前を出発した。二班とも町長や助役、役場職員が見送りに来ていた。何組かのホストとスタッフが車で熱海駅まで送り、新幹線ホームで見送った。

どの訪問者も湯河原滞在中はとても良かったと言ってくれた。特にホストの家では温かい歓迎を受け、とても親切にしてもらい、大変感謝していると言っていた。彼らがこれほど満足して帰国できたのも、ホストファミリーのお陰だったと改めてホストの皆さんに感謝したい。

両市町の交流はまだスタートラインに立ったに過ぎない。今後、様々な交流を重ね、市民レベルでの親密度を深めて、お互いに真のパートナーとなることを期待したい。将来、総湯河原町民が地球民となることを期待したい。





# オージー青年故国を語る 1999. 6. 21

## 国際理解講座 「オーストラリアと日本の文化」

講師：湯河原中学校 ボーダン・コーミック先生

協会の総会終了後に、外国語講座の講師として、オーストラリア青年のボーダン・コミック氏に講演を依頼した。彼は湯河原中学の英語を担当し、さきに英会話の講座もお願いし、今回は達者な日本語でオーストラリアの概要について語ってもらった。

第一印象として、さわやかな青年であり、1993年に埼玉県の高校に留学し、一年間日本語の勉強をして、翌年母国のセントラル・クイーンズ大学の日本教育学部に編入、1997年にイマージョン教育学科で日本語を徹底的にし込まれた経歴を持っている。余程日本が好きな青年で、言葉の習得に熱意を持ち、小田原の知人の紹介で来日し、現在にいたっている。

まずスピーチの前に自国の国旗を普通の国際的なマナーとして紹介して、その由来を誇らしげに簡単に説明した。

1) 建国の歴史について 23歳の青年が自分の国をどのように語るか、興味のあるところだったが、歴史から始めた。この国の誕生は、約200年前に英国の犯罪者を移民に仕立て、建国を始めた歴史がある。ツアーなどで訪問をする時は、この国の祖先の話題には触れないと言うタブーがあった。敢えて先ずこれに触れたことに、私は多少の戸惑いを覚えたが、今日の基礎を立派に育て上げた先祖への敬意と、今日の自国への自信があればこそ語られたのだろう。立派だった。

2) 文化について この国には原住民アボロジニーが住んでいたが、移民当時には多少の摩擦があったが、現在はお互いの存在を認め、完全に融和し、共生社会を現実のものにし、平和な生活を保っている。

3) 豊かな農業国 広大な領土は、アメリカ大国に匹敵すると言われているが、その有効面積の殆どは海岸線に限られ、そのゴールド・コーストと言われる地帯は肥沃な土地柄で豊穡な農畜産物に恵まれており、その大部分は輸出をして外貨収入を得ている。

国民の食生活は「緑の多い郊外の一戸建てに住み、肉とゆで野菜を中心にした食事を好む」と語られてきた。ところが、最近好みが変わり、いためた野菜やパスタ、ごはんなどを好む層が増えてきたらしい。

日本の場合、食糧の大部分を外国からの輸入に頼り、その食生活は典型的な飽食スタイルで、栄養所要量の改定問題までとやかく言われ、肥満の増大、糖尿病急増、栄養補助食品の取りすぎ、など問題点を指摘されている。

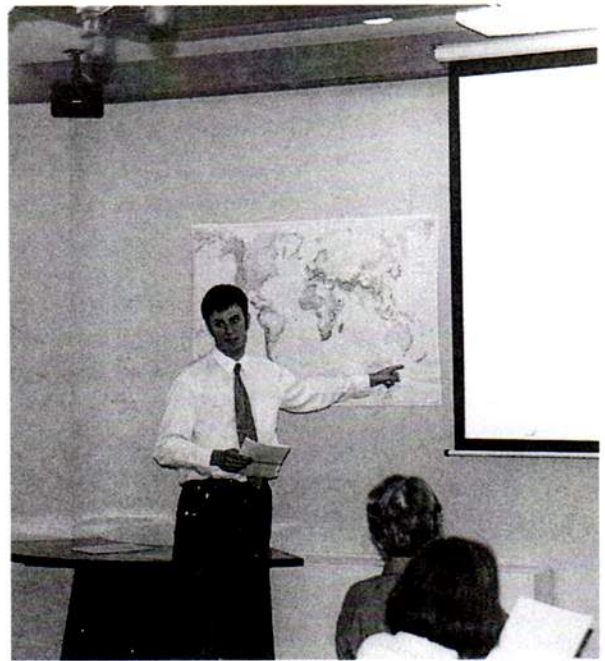
この恵まれた国オージーの食生活がつましく、日本の栄養知識の貧困さは、矛盾したコントラストであり、深刻な問題になっている。

4) 教育制度 教育費用が殆ど国家の負担で、本人の意思で自由に進学を決めるシステムは、きわめて理想的ではないだろうか。社会主義国がやろうとして、実現できないのを、大きな国家予算の赤字をだしながら、実行しているのは、全てに余裕があるからだろう。まさに、ラッキーカントリーそのものだ。

5) 一般庶民の生活 せまい日本では考えられない生活振りらしい。会社勤務は定時に終り、夕食まで地域のクラブのメンバーとしてスポーツをする姿は、我々から見ると夢のようなもので、人間生活の余裕を見せ付けられる思いがする。クラブ組織は英国風の特徴なもので、この運営の方針はフェアプレイを本分としている。ただしスポーツに限っての話だが、大人として、お互いに迷惑をかけない紳士協定みたいなものだ。

6) 私見 自分の国に誇りと余裕があることを語る青年のスピーチを聞いての感想は、幸せな生活とはなんだ?だった。お金に不自由しない平和な日本が、政治でも、教育でも、流行でも、常にトップを走っていないと、落ち着かない生活に、逆に振りまわされている現状だ。広大な国土は望むべくもないが、せめて狭いながらもお互いもう少し成長して、品性を豊かにし、愉快的生活を目指したいものだ。

白人社会は、生活の楽しみを何よりも優先するノウハウを持っている。グローバル時代とは、このスタイルを学ぶことから始まるのではないだろうか。 [石井立夫]



スライドも交え、様々な民族の住むオーストラリアの文化の特徴を語るコミック先生

#### 【活動報告】

#### 外国語講座

中国語..... 李平（リ・ヘイ）先生 初級 9月より全5回終了

中級 10月より（木曜）開催中

英語..... マーク・ブロードベント先生 10月より（火曜）開催中

#### 【お知らせ】

#### '99クリスマス会

恒例のクリスマス会を12月22日（水）夜、ゆがわら童夢で開催します。

チャリティー・オークションをしますので、是非品物のご協力を！

